

真宗の寺を守りてひとり住む友は見よとて赤き忍冬の花

(R)

お蚕さま・・・

昔は、多くの農家でお蚕さまを育てていました。忙しい時は、一家総出で働き、家中お蚕さまでいっぱいの際は人が遠慮して暮らしていました。また、「可愛いくて、口に入れて遊んだ。」という、女の子たちもいました。ふ化したカイコは、桑の葉を食べ四眠五齢して育ち、二十八九日後には白い繭を作り終えます。カイコが入り繭を作るまぶしは、藁で三角の空間を複雑に編んだものです。

今でも、大きくなったカイコがサクサクと桑の葉を食べる音は耳に残っている人が多いようです。そして、また赤黒く実ったクワゴを食べて唇が紫になったエピソードはあちこちで聞かれます。最近ではクワの実（英語ではマルベリー）は、カルシウム、鉄、カリウム、ビタミンCの含有率が高く、熟した実の色には、アントシアニンやポリフェノールが含まれ抗酸化作用が注目されています。漢方薬としても昔から咳止めや喘息に効き、血液の流れを良くし、滋養強壯の効果があるといわれています。まるで長寿の薬のようです。

育てる時期によって春蚕（はるこ）、夏蚕（なつこ）、秋蚕（あきこ）、晩蚕（ばんこ） 晩晩蚕（ばんばんこ）と呼んだそうです。養蚕は、5千年以上前から行われてきたと考えられています。人々はお蚕さまと呼び大切にしてきました。

・・・

蚕起きて桑を食う(かいにおきてくわをくう)

5月21日～5月25日頃

干し餅を砕き、空揚げにして砂糖をまぶす。豆を煎って同じく砂糖をまぶす。この二つをまぜて「豆炒り」ができる。朴の葉二枚を十字に敷き「豆炒り」をのせ、葉柄と葉先を縛る。(朴葉が袋の役)「豆炒りは」田仕事の中間食、「こんびり」に大変喜ばれた。

(小昼の音便化で「こんびり」)(海藤忠男)

紅花栄う(べいこばなさかう)

5月26日～5月30日頃

子供の節句よりひと月遅れの6月頃になると笹の葉も勢いを増してきます。毎年笹巻をつくるのが楽しみです。友達と近くの山に笹をとりに。鶯セミ等野鳥の声に耳を傾けながらの豊かな時間です。洗米したもち米を笹の葉で包み水につけておしつみぬげで結びます。くつつ煮ること一時間。お茶のみしたり、息子孫にきな粉と共に送ります。(と)

麦秋至る(ばくしゅういたる)

5月31日～6月4日頃

少し遅れたが先日60aの田植えをし、半日程で終えてしまった。40～50年前の子供の頃は親戚が集まり今日はこっちの家、明日はあっちの家と「結い」と言う言葉のもと共同作業をしていた。1～2週間と続き、そのたび大人について行き近くで遊んでいた。田んぼの形も様々、小さな丘もあり遠くまで行った…。(木霊)



2015.6.2 井出の田んぼに映る夕日

読書会だより⑳

大石田七十二候読書会・大石田町立図書館

大石田の小満のころ

七十二候より

苗が植えられた田圃は水の管理がされ蛙の音が聞こえてきます。夜歩いていると西の空にお月さまと金星そして木星。田の水面に写った月と星は歩くスピードについてきます。どんな風に歩いてても何枚もの田を歩いてくる月と星は可愛らしく思えました。棚田に映る「田毎の月」は一生見られないでしょうが、同じ名前の上生菓子を頂戴しました♪